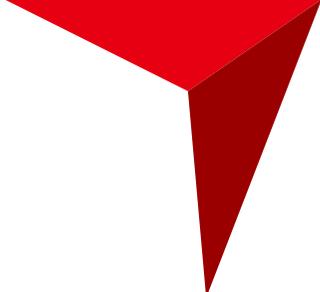


***SPORT  
FOR  
TOMORROW***



**スポーツ庁 長官感謝状  
受章団体紹介**

スポーツ庁長官感謝状授与式  
平成30年7月9日  
SFTC会員カンファレンス2018

# スポーツ庁長官感謝状（概要）

## 対象団体：

- ・2017年4月から2018年3月末までに承認された認定事業
- ・スポーツ庁長官表彰規定及び、長官感謝状の方針に沿う団体

## 表章項目：

### 1. 認定事業で最も多くの裨益者に貢献

政府関係団体については対象外とする。

#### 2-1. 多様性を尊重する世界

スポーツは、人種、言語、宗教等の区別なく参画できるものであり、国境を越え人々の絆を育む。スポーツを通じた国際交流により、「多様性を尊重する世界」の実現に貢献する。

#### 2-2. 持続可能で逆境に強い世界

スポーツは貧困層や難民、被災者など困難に直面した様々な人の生きがいづくりや自己実現のきっかけとなり、スポーツによる開発と平和への支援により「持続可能で逆境に強い世界」の実現に貢献する。

#### 2-3. クリーンでフェアな世界

スポーツは他者への敬意や規範意識を高められるものであり、日本が率先して模範となることで「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献する。

2-1～2-3については、第2期スポーツ基本計画の中でSFTが位置づけられている“スポーツで「世界」とつながる！”において強調されている項目。

### 3. 異分野間の連携のモデルとなる取組によりSFT事業の促進に貢献した団体

# “認定事業で最も多くの裨益者に貢献”

## 受章団体：株式会社太陽インダストリーアフリカ

太陽インダストリーアフリカでは、ナイジェリア連邦青年スポーツ省と連携し、現地の有望アスリートを日本の高校に3年間奨学金で留学する制度を2016年から運営している。ナイジェリアではスポーツ用具の不足によりスポーツ競技大会が開催できない等の問題が発生していたことから、複数のSFTC会員団体よりスポーツ用具(31645点)を募集し、現地に届けた。自社での負担により現地に用具を届けることにより、会員団体のマッチング機会の創出にも貢献した。

事業名	アスリート留学生プロジェクト2017 (2018年よりトップ パフォーマー スカラシップ プログラムに改名)
実施期間	2017年4月1日～2018年3月31日
実施国	ナイジェリア連邦共和国
スポーツ種目	サッカー、バレーボール、卓球、バドミントン等
支援先	ナイジェリア連邦青年スポーツ省
用具提供団体	クーバー・コーチング・ジャパン、さっぽろ健康スポーツ財団、サロン2002、Jリーグ、セノー、新潟市開発公社、日本車椅子バスケットボール連盟、日本スポーツ振興センター、日本卓球協会、日本パラリンピアンズ協会、日本バレーボール協会
支援対象者数	31918人

本事業に関連するSDGs  
(持続可能な開発目標)



# “多様性を尊重する世界”

## 受章団体：特定非営利活動法人モンキーマジック

ブラインドクライミング世界チャンピオンであるモンキーマジック代表の小林氏自身が、ケニアの盲学校に通う子どもたちを対象に、クライミングクリニックを開催。日常的にスポーツを行う機会の乏しい盲学校の子どもたちに対して、スポーツを通して笑顔を増やし、自己効力感高める機会を提供した。クリニックは、ケニアの盲学校の先生とともに運営し、これまで繋がりがなかったクライミングジムと盲学校の接点を構築することで、持続的な運動機会の創出にも貢献した。

事業名	No Sight But Onsight ～クライミングをケニアの視覚障害のある子どもたちに～
実施期間	2018年3月12日～16日
実施国	ケニア共和国
スポーツ種目	クライミング
支援先	Kilimanjaro Blind Trust Africa／Blue Sky／諸学校
支援対象者数	95人

本事業に関連するSDGs  
(持続可能な開発目標)



# “持続可能で逆境に強い世界”

## 受章団体：特定非営利活動法人難民を助ける会（AAR Japan）

難民の子どもたち、地元ウガンダの子どもたちを含め、多様な背景を持つ子どもたちがスポーツを通じて交流し、お互いを理解するためのスポーツ（サッカー・ネットボール）大会を開催した。スポーツの価値を活用し、難民という厳しい境遇にいる人々に心のゆとり（平和へのきっかけ）を提供。子どもたちが通う学校の教員からは「経験を共有することで異なった国籍の児童たちの距離が近くなり、友情を育むことができた」などの感想が多く寄せられた。

事業名	ウガンダ北部の南スーダン難民居住地における教育支援
実施期間	2017年7月16日～2018年5月31日
実施国	ウガンダ共和国
スポーツ種目	サッカー、ネットボール
協働団体	ウガンダ共和国首相府難民局（管轄省庁）、UNHCR Windle International Uganda Transcultural Psychosocial Organisation Uganda Plan International
支援対象者数	546人

本事業に関連するSDGs  
（持続可能な開発目標）



# “クリーンでフェアな世界”

受章団体：特定非営利活動法人グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）

国連環境計画（UNEP）と連携して日本式UNDOKAIを開催し、参加者に対して植樹やクリーンアップなどの環境教育プログラムを提供。運動会事業は、スラムエリアに住む子どもたちから、各地域のリーダーを育成することを目指して2005年から継続的に実施している。“UNDOKAI”を経験した子供たちは、日々の生活の中でも仲間と協力する姿が垣間見られ、プログラム経験者は、子どもたちのロールモデルとなり、アシスタントとして再び活動に協力してくれるなど著しい成長が見られる。

事業名	GSAドリームキャンプ(Nature & Sport Training Camps 2017 - ケニアでUNDOKAIの実施 -
実施期間	2017年8月7日～8月18日
実施国	ケニア共和国
スポーツ種目	運動会
支援先	Sadili Oval Sports Academy
支援対象者数	300人

本事業に関連するSDGs  
(持続可能な開発目標)



# “異分野間の連携のモデルとなる取組により SFT事業の促進に貢献した団体”

受章団体：一宮町サーフィン業組合、株式会社商船三井、一宮町

オリンピックのサーフィン会場に、一宮町が決定したことを契機に一宮町サーフィン業組合が隣接するいすみ市サーフィン業組合と連携しサーフボードを回収。商船三井が輸送に協力し、課題だった現地での輸送を有限会社ガスコがつなぎ、南アフリカの現地NGO団体 Surfer's not Street Childrenに寄贈した。現地輸送に協力した有限会社ガスコは、南アフリカのルイボスティーの日本への輸入会社で、現地への恩返しがしたいという思いがあり、今回、東京大会の開催地に決まった一宮町から世界へ貢献したいという思いに合致した形となった。サーフボードを通してつながっていく連携事業としてモデルとなる取り組みであり、SFT事業の促進に貢献した。

事業名	Surf for Smile 南アフリカにサーフボードを贈るプロジェクト
実施期間	2017年5月～2018年3月
実施国	南アフリカ共和国
スポーツ種目	サーフィン
協働団体	有限会社ガスコ(ルイボスCHAリティー)、いすみ市サーフィン業組合 日本サーフィン連盟千葉東支部
支援先	NGO団体 Surfers Not Street Children
支援対象者数	300人

本事業に関連するSDGs  
(持続可能な開発目標)

